

10. 難治性関節リウマチ（RA）に対する白血球除去療法（LCAP）の検討—多施設共同研究—

植木幸孝

佐世保中央病院リウマチ・膠原病センター

(目的) セルソーバ (CS-100) を用いた LCAP は RA の免疫異常を是正する。今回その臨床的効果について多施設で検討した。

(方法) 全国 14 施設で以下の条件を満たす RA 患者 30 例に対しセルソーバ (CS-100, 旭メディカル製) を用い週 1 回 (3 L 血液処理) 計 5 回施行し終了後 4 週目で臨床効果を ACR コアセットで判定した。
適応基準：活動性が高く薬物療法に抵抗する関節リウマチ患者。さらに、以下の 2 項目を満たすもの：1) 腫脹関節数 6 カ所以上, 2) ESR $\geq 50 \text{ mm/h}$ あるいは CRP $\geq 3 \text{ mg/dL}$ 。

(結果) 1) LCAP 終了後 4 週目で ACR 20 が 22/30 (73%), ACR 50 が 8/30 (27%) で高い有効性が確認された。2) 有害事象は胃部不快感や、軽度な血圧低下などで極めて軽微で安全であった。

(結語) CS-100 を用いた LCAP、週 1 回連続 5 回の施行で RA 患者に対し有効な臨床効果が得られた。

11. 重症型アルコール性肝炎に対する白血球除去カラムの使用経験

古賀郁利子^{*1}・桑原礼一郎^{*1}・緒方 啓^{*1}
久持顕子^{*1}・田中一雄^{*1}・有永照子^{*1}・井出達也^{*1}
西田秀美^{*2}・神代龍吉^{*1}・佐田通夫^{*1}
久留米大学第二内科^{*1}、同腎臓内科^{*2}

重症型アルコール性肝炎は死亡率 70% を越える予後不良の疾患であり、治療も確立されていない。その病態には著明に増加した末梢血白血球が関与している。2001 年～2003 年にかけて 5 例の重症型アルコール性肝炎症例に対し、顆粒球吸着用白血球除去カラム (Adacolum) による治療 : GCAP を行った。男性 : 女性 = 2 : 3, 平均年齢 43.8 ± 15.3 歳, GCAP 施行回数は 1～3 回であった。初回 GCAP 施行時の推定死亡率が 58, 85, 99% であった 3 例は生存し, 79, 100% であった 2 例が死亡した。重症度には差があるが 5 例中 3 例の生存をみたことは、重症型アルコール性肝炎における本治療の有用性が示唆されるものと考える。

12. 神経筋疾患の免疫吸着療法における血圧低下の予防と対策

川浪祥子^{*1,*2}・森尚一郎^{*2}・廣岡 満^{*1,*2}高橋和範^{*2}・村田敏晃^{*3}・内藤説也^{*3}福岡大学神経内科・健管^{*1}同内科第一 (神経)^{*2}, 同腎センター^{*3}

【目的】 血漿交換療法の副作用として、アンケート調査 (1989 年) によると、23% に低血圧があると報告され最も多い。免疫吸着療法の途中で、昏睡、四肢麻痺を来たした例も知られている。神経筋疾患の免疫吸着療法における血圧低下の実態を調査し、予防と治療について検討する。

【対象と方法】 1987 年から 1999 年まで当院腎センターで行われた、A : 慢性炎症性脱髓性多発根神経炎 (CIDP) 4 例 (のべ 157 回), B : 急性炎症性脱髓性多発根神経炎 5 例 (22 回) (ギラン-バレー症候群 1, Fisher 症候群 4), C : 末梢性多発ニューロパシー 3 例 (67 回), D : 重症筋無力症 10 例 (53 回) を対象とした。カラムは、TR 350, PH 350, 抗凝固剤として、ヘパリンまたはフサンを用いた。血圧は、1. 収縮期圧の変動が 20 mmHg 以上の低下 (低下時 100 mmHg 以上の場合を除く), 2. 収縮期圧が 90 mmHg 以下に低下の場合を血圧低下と判定した。

【結果】 血圧低下の頻度は、A : 28.0%, B : 52.6%, C : 32.8%, D : 22.6% で、B 群に最多であった。血圧低下は、直ちに 5% アルブミンまたは生理食塩水の投与がなされて改善し、気道分泌過多に、口腔、気管内吸引を行い、チアノーゼに対しては、酸素吸入を行ったために、障害を残さなかった。

【結論】 神経筋疾患の安全な免疫吸着療法のためにには、全身的な一般内科的評価と共に、意識障害、呼吸困難、不随意運動、運動麻痺など、神経内科的専門診療が必須と考えられた。

13. 加温式リサーキュレーション法による二重濾過血漿交換を行った各疾患に対する臨床効果

村田敏晃・平野 一・長谷川善之・笹富佳江
小河原悟・兼岡秀俊・齊藤喬雄
福岡大学医学部第 4 内科

【目的】 加温式リサーキュレーション法を使用した二重濾過血漿交換の臨床効果。

【対象】 透析患者に合併した閉塞性動脈硬化症患者 (ASO) 4 名、膜性腎症・紫斑病性腎症・巢状糸球体硬化症・多発性硬化症各 1 名。